

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
渡辺主幹 城委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料「美幌町の農業」について説明</li> <li>・JA資料について説明</li> </ul>
渡辺主幹	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状課題について説明</li> </ul>
佐藤部会長	<p>農業は範囲が広く、なかなか質問しづらいかもしれない。私は一番現場に近い者なので、課題を2つに絞って意見したい。一つは担い手不足の問題。結婚しない方が増えているなど将来に不安がある。</p> <p>もう一つは特産物について。畑作三品（麦・甜菜・芋）と畜産だけではバリエーションが少なく感じる。野菜を作れば良いという単純な話ではないが、特産物があることによって、多くの人を取り込めるのではないかと。町では豚醤油を特産品として推しているが、養豚業が1戸しかない。地場の産業としては続かないのでは。</p>
城委員	<p>農業の担い手不足について。1人や2人で農業を行う方が増えてきている。そういったことで、玉ねぎやアスパラの選別については自前で行っている方はほとんどなく、農協で施設を整備し、取りまとめて行っている。しかし、最近ではその選別作業に人が集まらない。町内募集では足りないので、人材派遣会社へ連絡し北見市などからも来ているが、それでも足りない。80～90%の充足率となっている。1日に畑から運ばれてくる量はかわらないので、パートに長時間お願いしている状況。</p> <p>美幌町全体での作業労働力の確保についても大きな課題と考える。選別作業に人が集まらないのは、賃金の問題もあるが、北海道の農業は夏しかないで、通年働けないところに課題があると思う。また、シルバーセンターは、夏は庭の剪定作業などがあり集まらない。</p>
広島部長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な考え方について説明</li> </ul>
渡辺主幹	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現計画の検証</li> </ul>
太田委員	<p>農業と聞くと重労働というイメージがあるが、最近全国的なニュースではタブレットを使って無人化を進めるなどで効率化を図っているなども聞く。実態はどのような状況か。また、今後の見通しは。</p>
佐藤部会長	<p>農業従事者は、20年前と比べ半減しているが、作付面積は変わっていない。ということは、1人当たりの作業面積が増えているということ。しかし、機械化や技術の進歩によって労働時間は変わっていない、むしろ減っている感もある。昔より肉体的には疲労していない。しかし、これから更に従事者が減る傾向にある。よって、技術等のレベルアップや、経営手法の見直しを検討していく必要がある。</p>
広島部長	<p>町には認定農業者の制度があり、認定基準では、20haの畑を年間2,000時間で行う。この時間は、週休二日制における労働時間と同等程度。昔のイメージほど重労働ということではない。</p>
佐藤部会長	<p>先日参加した研修で、小中学の修学旅行生をファームステイとして受け</p>

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
(引き続き) 佐藤部会長	入れし、農業への理解を深めるという事業を行っている例を聞いた。
阿閉委員	新規就農で、20haの農地を買って、農家として成り立っていけるのか。生活していけるのか。支援策などあるとは思いますが。
佐藤部会長	考え方とやる気と試行錯誤で生き残れる方法はあると思う。都会のサラリーマン生活で疲れた方が農業に挑戦する際、憩いにはなると思うが生活していくための収入を得るためには、それなりに努力しなければならない。農業は、考え方を多様に持てるので、一つの方法にこだわることもない。自由な発想でトライできる。
広島部長	<p>美幌みらい農業センターでは、新規就農者の育成を行っており、3年間理論と実践の研修を行った後の就農となる。現在までに13名就農している。就農後の状況は様々で、厳しい経営をされている方もいれば、規模を拡大しようとしている方もいる。この差は、やる気の差や、労働力の観点から1人で就農するのは厳しいという見方がある。例えば結婚などによって夫婦で労働すると、労働力が増える。</p> <p>40歳までの就農については、青年就農のカテゴリに入り、北海道も無利子融資などの補助制度を持っている。</p> <p>20haの農地であれば、それに対応した作業機械の購入が必要となるが、美幌町では基本的に経営継続方式による新規就農を進めており、家、土地、機械ごと譲り受ける。最近離農される方のほとんどの理由が、後継者がいないことによるもの。</p>
渡辺主幹	新規就農者の育成については、美幌みらい農業センターを設置した平成15年から行っており、経営継続方式については、平成26年から開始している。
林委員	新規就農の数は、成果として足りているのか。
広島部長	新規就農者がいいのかどうかは別として、農家数の減少を見れば、農地を守るという観点からも、農家数を増やしていかなければいけないと考えている。
林委員	話し合いの方向を、農家数を増やすことを重点的にすべきでは。
佐藤部会長	畜産農家の状況は。
城委員	畜産については、大きく分けてホルスタインの搾乳と和牛農家の2つ。搾乳農家は10戸くらいだが、半分以上後継者がおらず、極めて厳しい状況。和牛農家の方は、農業との兼業が多いので比較的安定している。
林委員	畜産について、従事者の育成などの支援策はないのか。
城委員	町によって様々な支援を行ってはいるが、酪農は24時間365日の労働なので、憧れだけでは無理。酪農ヘルパーという冠婚葬祭などの際に、

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
城委員	スポットでヘルプしてくれる制度もあるが、お金がかかる話なので、何度も利用できる訳ではない。
佐藤部会長	検討シートのP85に記載のある法人化の推進について。1人で経営するのかチームで経営するのか選択する時代が来ているのではないか。1人で経営を行うリスクを回避することができ、また、収量に差が出るため多い人に追いつきたいという気持ちになり意欲が高まり結果全体の収量が上がった、など他町でも成功例もある。
城委員	法人化には、作業機械の共有メリットもある。
⑤新しい計画の内容について	
竹下主査	最初に話のあった、担い手不足や特産品についての課題に係る施策が第5期にはあるか。なければ強化や新規施策を検討するなどの必要があるのでは。
広島部長	第5期には、残念ながら具体的な取組がない。
阿閉委員	新規就農者へのバックアップについて。経営が上手くいっていない方への指導などはしているのか。
広島部長	農業は地域性が高い。地域の方と上手く付き合うように指導している。また、経営が上手くいっていない方については、農業センターや農業改良普及センターから指導を行うこともある。
信太委員	観光の観点から、例えばひまわり畑がある、などの景観の情報が欲しい。また、物産協会では趣味で作った野菜を地産地消として販売しているが、それでいいのかという問題がある。和牛まつりについても、内容は割愛するが、課題がある。 アスパラについては、ふるさと納税でも反響が高いので、もっと出荷数が増えて欲しいという希望がある。つくるのに手間がかかるのは理解しているが、そこをクリアできれば特産品として全国にPRできる。
林委員	出荷数が少ないことで、希少価値が上がり良い効果もあるのでは。
阿閉委員	ネット販売も検討してはどうか。
信太委員	観光の観点から言えば、特産品であるアスパラを、採れたてをその場で食べることに宅急便で送ることは意味が大きく異なる。実際に来て頂いて食べて頂くことで、観光リピートも狙える強みもある。
佐藤部会長	現在農協青年部で小さい農場をつくり、子ども達に収穫体験を行っている。子ども達が農業に直接触れることによって、感動を与えていきたい。 大手企業の次世代を担う幹部達が十勝の酪農家にホームステイし、搾乳や収穫体験をした後ディスカッションしたところ、体験を経て牛乳1リットルの価格設定を2,000円と答えていた。そのくらい、酪農者の労働

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
<p>(引き続き) 佐藤部会長</p>	<p>が厳しいということが良く解る良い機会となったようだ。大手企業は、農業の実態などほとんど解っていない。現在、農業に携わっている方は、総人口の4%と言われている。農業について、せめて美幌の子ども達には知っててもらいたい。</p>
<p>竹下主査</p>	<p>まもなく本日の会議が終了となる。 次回会議に向けて、③現計画の検証に目を通していただき、意見などあればまとめておき、また、ここにはない新規施策があれば意見を伺いたいの で準備していただきたい。</p>
<p>林委員</p>	<p>内容が難しくてよくわからないことが多い。アンケートの結果などを踏まえて、重要事項に絞って議論した方がよいのではないか。</p>
<p>広島部長</p>	<p>次回まで少し時間があるので、目を通していただいて、解らないことは、随時事務局に聞いていただきたい。</p>